

PRIMERGY

B7FY-1101-01



取扱説明書

内蔵光磁気ディスクユニット
(PG-PD240/PGBPD240)

FUJITSU

はじめに

このたびは、PRIMERGY（プライマジー）用内蔵光磁気ディスクユニット（PG-PD240/PGBPD240）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、内蔵光磁気ディスクユニットをご使用になられる方に、本装置の正しい操作および取り扱い方法をご理解いただくために書かれています。

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

2003年6月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について



本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。




本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT 4.0
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

■ 本製品の取り扱いについて

⚠ 警告

窒息



- ・ 梱包に使用しているビニール袋はお子様が入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。

感電



- ・ 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに本体装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

誤飲



- ・ 手動イジェクト治具や取りはずしたネジは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

感電

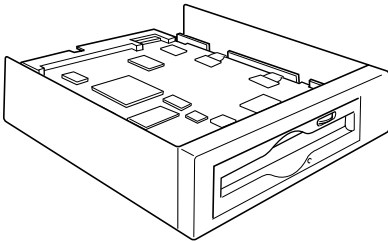


- ・ 本装置をお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。

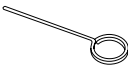
梱包物の確認

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。
万一足りないものがございましたら、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

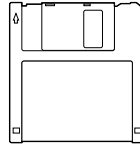
内蔵光磁気ディスクユニット



手動イジェクト治具



光磁気ディスク・ユーティリティ (1.3GB) FPDセット
フロッピーディスク 2枚



SCSI変換コネクタ (68pin-50pin)
電源分岐ケーブル
取扱説明書 (本書)
保証書

POINT

- ▶ 保証書は必要な事項が書かれているか、ご確認ください。お買い上げ時に正しく記載されていない場合は、保証書が無効となり無償保証を受けられないことがありますので、十分にご注意ください。記載内容が不十分でしたら、速やかに担当営業員にお問い合わせください。

保証書は大切に保管しておいてください。

RINGOWIN は、富士通株式会社の商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

目次

1 概要	7
1.1 説明書の使い方	7
1.2 ディスクユニットについて	8
1.3 各部の名称と働き	9
2 準備	11
2.1 スイッチの初期状態	11
2.2 ドライブ番号の設定	12
2.3 動作モードの設定	12
2.4 サーバ本体への装着	13
2.5 デバイスドライバについて	13
3 使い方	14
3.1 ディスクの入れ方	14
3.2 ディスクの取り出し方	15
4 取り扱いについて	16
4.1 ディスクユニットの取り扱い	16
4.2 ディスクの取り扱い	17
4.3 クリーニングについて	18
付録 A 主な仕様	19
索引	20

1 概要

1.1 説明書の使い方

内蔵光磁気ディスクユニット PG-PD240/PGBPD240（以下、ディスクユニット）をお使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、大切に保存しておいてください。

この説明書は、次の4つの章で構成されています。目的に合わせて、お読みください。

1 概要

ディスクユニットの概要として、特長や各部の名称と働きなどについて説明しています。

2 準備

ディスクユニットのドライブ番号の設定の仕方、サーバ本体への装着の仕方などについて説明しています。ディスクユニットを装着する際に、お読みください。

3 使い方

ディスクユニットの電源の入れ方、ディスクの入れ方・取り出し方について説明しています。実際にお使いになるときに、お読みください。

4 取り扱いについて

ディスクユニットやディスクの取り扱い上のご注意について説明しています。また、ディスクユニットのレンズとディスクのクリーニングについても説明していますので、お使いになる前に必ずお読みください。

付録 A 主な仕様

ディスクユニットの主な仕様について説明しています。

1.2 ディスクユニットについて

1.2.1 特長

ディスクユニットには、次のような特長があります。

- 光磁気記録方式により、何度でもデータの書き込み、消去ができます。
- 直径 3.5 インチ (約 90mm) の光磁気ディスクに、約 1.3GB の大容量の情報が書き込めます (光磁気ディスクカートリッジ R13G 使用時)。これは、3.5 インチのフロッピーディスク (2HD) の約 1000 倍に相当します。
- 高速なデータ書き込みを実現する光変調オーバーライト方式の光磁気ディスクをサポートしています。
- インタフェースに、SCSI (Small Computer System Interface) を採用しており、サーバ本体の内部 SCSI バスに接続します。
- 高速スピンドルモータにより、最大約 6.70Mbyte/sec の高速データ転送速度を実現しています (光磁気ディスクカートリッジ R13G 使用時)。
- 直進式ボイスコイルモータを使用したヘッド位置決め機構の採用により、平均シーク時間は 23msec と高速です。
- 信頼性の高いエラー訂正機能の採用により、 10^{-12} のエラー率を実現しています。

1.2.2 使用できるディスク

このディスクユニットでは、次の直径 3.5 インチの光磁気ディスクが使用できます。

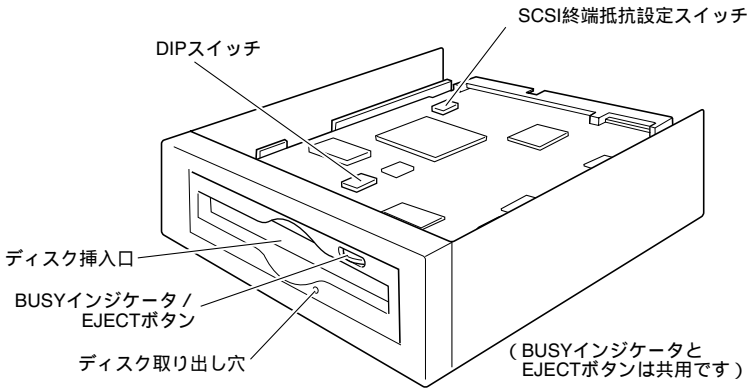
商品名	サプライ商品番号	総記録容量	備考
光磁気ディスクカートリッジ R128	0242110	128MB	
光磁気ディスクカートリッジ R230	0242210	230MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW230	0242310	230MB	オーバーライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R540	0242410	538MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW540	0242510	538MB	オーバーライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R640	0242610	643MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW640	0242710	643MB	オーバーライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R13G	0242810	1.28GB	

POINT

- ▶ 総記録容量は $1\text{MB} = 1000 \times 1000$ バイトで換算しています。

1.3 各部の名称と働き

■ 前面／上面



① ディスク挿入口

ここにディスクを入れます。ディスクの入れ方は、「3 使い方」(→ P.14)をご覧ください。

② BUSY (動作中) インジケータ / EJECT ボタン

・ BUSY インジケータの働き

ディスクのデータの読み取りや書き込みをしている時に、緑色に点灯します。また、ディスクユニット内が規定温度以上になると、読み書きの動作に関係なく約1秒ごとに点滅を繰り返します。

・ EJECT (ディスク取り出し) ボタンの働き

ディスクユニットに入っているディスクを取り出す時に押します。

ただし、ソフトウェアによってディスクのイジェクト(取り出し)が禁止されている場合は、取り出すことができません。

③ ディスク取り出し穴

万一、ディスクが通常の方法で取り出せなくなった時は、この穴に、付属の手動イジェクト治具を押し込むことにより、ディスクを取り出すことができます。詳しくは、「3 使い方」(→ P.14)をご覧ください。

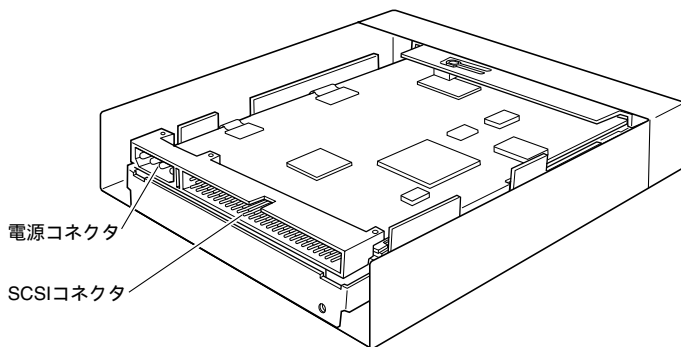
④ DIP スイッチ

ドライブ番号および動作モードを設定します。詳しくは「2 準備」(→ P.11)をご覧ください。

⑤ SCSI 終端抵抗設定スイッチ

ディスクユニット内部の終端抵抗を設定します。詳しくは「2 準備」(→ P.11)をご覧ください。

■後面／上面



①電源コネクタ

サーバ本体からの電源ケーブルを接続します。ケーブル長が足りない場合には、本装置に付属の電源分岐ケーブルを使用してください。

②SCSIコネクタ

サーバ本体からの内部 SCSI ケーブルを接続します。

サーバ本体と接続する場合は、付属の変換コネクタをサーバ本体に取り付け、SCSI ケーブルに接続してください。

2 準備

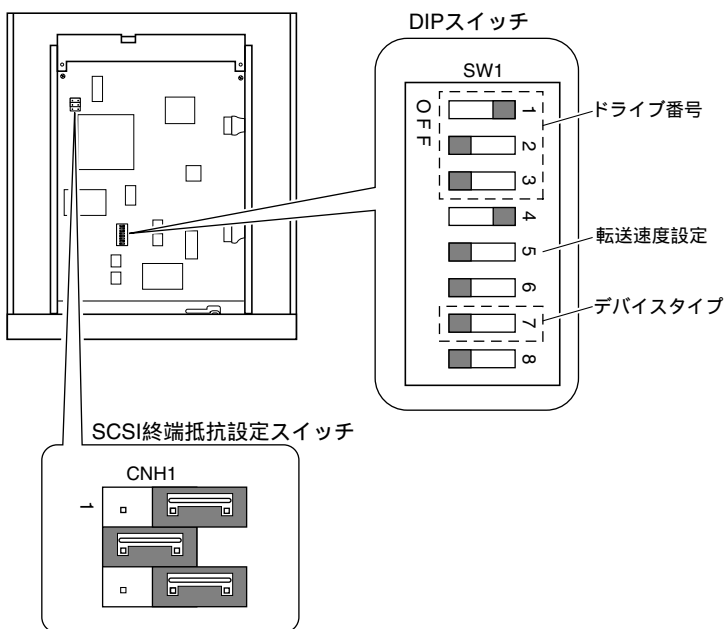
ディスクユニットのドライブ番号と動作モードを設定した後、サーバ本体に装着します。

POINT

- ▶ サーバ本体、およびソフトウェアの準備については、それぞれの説明書をご覧ください。

2.1 スイッチの初期状態

DIP スイッチ (SW1) と SCSI 終端抵抗設定スイッチ (CNH1) のお買い上げ時の設定状態は、次のようになっています。



2.2 ドライブ番号の設定

ディスクユニットのドライブ番号を設定します。

お買い上げ時は、「# 4」に設定されていますので、上面にある DIP スイッチ (SW1) のスイッチ 1～3 を操作して、設定したいドライブ番号に合わせてください。

スイッチ設定状態とドライブ番号 (SCSI ID) との対応を、次の表に示します。

ドライブ番号	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチ 3
# 0	OFF	OFF	OFF
# 1	OFF	OFF	ON
# 2	OFF	ON	OFF
# 3	OFF	ON	ON
# 4	ON	OFF	OFF
# 5	ON	OFF	ON
# 6	ON	ON	OFF
# 7	ON	ON	ON

注) # 7 は設定禁止です。

POINT

- ▶ ドライブ番号が正しく設定されていないと、ディスクユニットが正常に動作しません。
- ▶ ドライブ番号は、# 0～# 6 の範囲で他の SCSI 機器と重ならないように設定してください。

2.3 動作モードの設定

上面の DIP スイッチ (SW1) で、ディスクユニットの動作モードを設定します。

ドライブ番号およびデバイスタイプの指定以外の DIP スイッチは、お買い上げ時の設定を変更しないでお使いください。

スイッチ	設定内容	お買い上げ時の設定
5	転送速度を指定します。 ON : 非同期設定 OFF : 同期転送設定 (10MB/sec)	OFF
7	デバイスタイプを指定します。 ON : デバイスタイプ = 0 (ダイレクトアクセス装置) OFF : デバイスタイプ = 7 (光メモリ装置)	OFF

2.4 サーバ本体への装着

装着の前に、サーバ本体の電源を必ず切ってください。装着方法の詳細は、サーバ本体添付の取扱説明書をご覧ください。

2.5 デバイスドライバについて

デバイスドライバについては本装置に添付されている光磁気ディスク・ユーティリティ（フロッピーディスク）内のデバイスドライバをご使用ください。

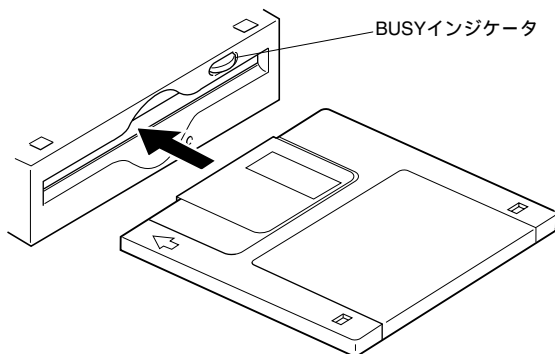
POINT

- ▶ ディスクをフォーマットする場合は、デバイスドライバに付属される MO フォーマッタの機能を使用してください。
- ▶ Windows NT4.0環境で使用する場合、スーパーフロッピー形式の1.3GB及び640MBのディスクに対して、マイコンピュータのドライブアイコンを右クリックして「フォーマット」を選択してフォーマットする操作はしないでください。
そのディスクは、Windows NT4.0では使用できなくなります。
もし、間違えてこの操作をしてしまった場合は、本デバイスドライバのフォーマッタの機能を使用して再フォーマットしてください。
- ▶ エクスプローラでディスクユニットにアクセスしておいて、本デバイスドライバの MO フォーマッタを起動してディスクユニットを選択すると、「このドライブはロックできないため、排他的に使用することはできません。別のアプリケーションがドライブにアクセスしていないか確認してください」と表示される場合があります。
このような場合は、エクスプローラでのディスクユニットアクセスを解除してご使用ください。
- ▶ 本デバイスドライバの MO フォーマッタでディスクユニットを選択した状態で、ファイルマネージャでディスクユニットにアクセスすると、「x: ¥にアクセスできません。…」と表示される場合があります。
このような場合は、MO フォーマッタでディスクユニットを選択した状態を解除してご使用ください。
- ▶ Windows NT4.0で、エクスプローラでの右クリック画面で媒体取り出し指示をした場合、「リムーバブルディスク (x) をマウントするときに、エラーが発生しました。そのボリュームのファイルまたはウィンドウを開いていないか確認してください」と表示され、媒体が排出されない場合があります。
このような場合は、マイコンピュータでの右クリック画面で媒体取り出し指示をしてください。

3 使い方

3.1 ディスクの入れ方

- 1 サーバ本体を起動します。
起動の仕方は、サーバ本体添付の説明書をご覧ください。
- 2 矢印のついた面を上にして、ディスクをディスク挿入口に差し込みます。



- 3 ソフトウェアを使って、ディスク上のデータの読み取りや書き込みをします。

読み取りや書き込み中は、BUSY インジケータが点灯します。

POINT

- ▶ 本装置にディスクを入れて、ディスクがロードされる時にも BUSY インジケータが点灯します。この場合、R13G ディスク使用時は約 12 秒間点灯し、R13G 以外のディスク使用時（約 8 秒間）よりも長く点灯しますが、これは故障ではありません。
- ▶ 本装置はパワーセーブ機能をもっており、約 30 分間アクセスがない場合、ディスクの回転を停止させています。したがって、その後の最初のアクセスに対しては、ディスクの回転立ち上げ（R13G 以外のディスク使用時約 8 秒、R13G のディスク使用時約 12 秒）のために、応答までの時間が長くなります。

3.2 ディスクの取り出し方

ディスクは以下のどちらかの方法で取り出すことができます。

- 1 Windows 上でドライブアイコンを右クリックで表示されるメニューの「取り出し」を実行する
- 2 光磁気ディスクユニットの前面にある「EJECT ボタン」を押す

Windows 起動状態でディスクを取り出すときは、トラブルを避けるためにも 1 の方法で取り出すことをお薦めします。

POINT

- ▶ ディスクのデータの読み取り、書き込みにより BUSY インジケータが点灯している間は、ディスクを取り出さないでください。点灯している間に取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。
- ▶ 本装置を固定ディスクとして使用する場合は、パソコンの操作中はディスクを取り出さないでください。パソコンの操作中にディスクを取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。
- ▶ 本装置はディスク取り出し時、ディスクを先端から約 2cm 引き出した位置で、引き出す力が強く必要になることがあります。これはディスクイジェクト動作時に、ディスクが本装置から飛び出してしまおうを防ぐための動作であり、故障ではありません。

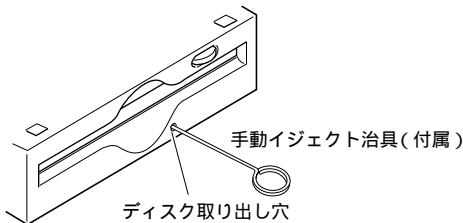
■ ディスクが取り出せない場合は

次のような場合は、EJECT ボタンを押してもディスクが取り出せないことがあります。

- ・ソフトウェアでディスクのイジェクトが無効に設定されているとき
- ・本装置が故障したとき
- ・パソコン本体にトラブルが生じたとき
- ・停電などで本装置の電源が入らないとき

この場合は、次のようにしてディスクを取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 付属の手動イジェクト治具を、ディスク取り出し穴にまっすぐに押し込みます。



4 取り扱いについて

4.1 ディスクユニットの取り扱い

4.1.1 万一の故障を防ぐために

■ 衝撃・振動を与えないでください

落とすなど強い衝撃を与えると、故障することがあります。

■ 設置場所

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・湿気の多い所や乾燥している場所
- ・ほこりの多い場所
- ・極度に高温や低温な場所
- ・激しい振動のある場所
- ・直射日光の当たる場所
- ・不安定な場所
- ・温度変化の激しい場所

また、保管する場合は、DIP スイッチのある面を上に向けてください。

■ 風通し

ディスクユニット内部の温度上昇を防ぐため、動作中に布などで包んだり、空気の流れの悪いところに置かないでください。ディスクユニット内部が高温になると、動作しなくなる場合があります。

■ 急激な温度変化は避けてください

寒いところから暖かいところに移したり、室温を急に上げたりした時は、ディスクユニット内部に結露が起こる場合があります。急激な温度変化があった直後は使わずに、1時間以上待ってからお使いください。結露が起きたままディスクを入れると、ディスクユニットやディスクが損傷することがあります。結露が起きている可能性がある場合は、すぐにディスクを取り出してください。

■ ディスクを入れたまま移動しないでください

使わない場合は、ディスクを必ず取り出しておいてください。ディスクを入れたまま、サーバ本体を持ち運んだりしないでください。

また、使用中は、ディスクが高速で回転しています。この時、ディスクユニットを動かすと動作が不安定になったり、ディスクを傷つけたりするおそれがあります。ディスクを取り出してから、移動してください。

■ 異常がおきたら

万一、異常や不具合が生じた場合は、サーバ本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、担当営業員または担当保守員にご相談ください。

4.1.2 その他ご注意いただきたいこと

■ 雑音電波について

ディスクユニットは高周波の信号を扱うため、ラジオやテレビ、オーディオチューナーなどに雑音が入ることがあります。この場合は、距離を少し離してご使用ください。

■ 前面パネルが汚れたら

前面パネルの汚れは、乾いた柔らかい布で拭きとってください。汚れがひどい場合は、うすい中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でからぶきしてください。アルコール・シンナー・殺虫剤など、揮発性の溶剤は使用しないでください。表面の仕上げをいためたり、表示が消える場合があります。

4.2 ディスクの取り扱い

4.2.1 取り扱い上のご注意

- ・他のソフトウェアでフォーマットしたスーパーフロッピー形式のディスクには、Windows NT 4.0 ではご使用できないものがあります。
(例：「3.5 インチ光磁気ディスク 互換媒体ドライバ」でフォーマットしたもの、およびRINGO WIN や SCSI カードの添付ユーティリティ (AFDISK.EXE) でフォーマットした後に MS-DOS の FORMAT コマンドでフォーマットしていないものなど)
- ・ディスクに激しい振動を与えたり、落としたりしないでください。
- ・ディスクは、工場出荷時に精密に調整されていますので、分解しないでください。
- ・ディスクは、ディスクユニットに挿入すると、自動的にシャッターが開く自動装填式です。ディスクのシャッターを手で開けて、内部に触れないでください。
- ・温度差の激しい所や湿気の多い所では使わないでください。結露が起こって、データの書き込みや読み取りができなくなる場合があります。
- ・必要以上に、ディスクをディスクユニットに出し入れしないでください。
- ・ディスクのラベルは、端がはがれないように貼ってください。また、ラベルを重ねて貼らないでください。ディスクユニットから取り出せなくなる原因になります。
- ・使い終わったら、必ずディスクユニットからディスクを取り出しておいてください。また、持ち運ぶときには必ずケースに入れてください。

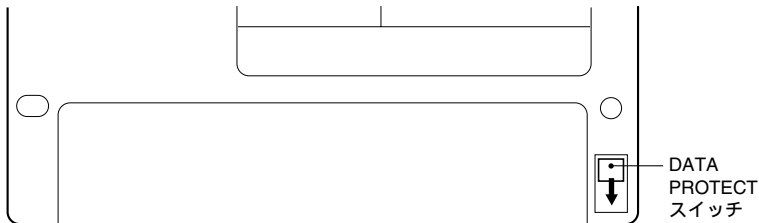
■ ディスクの保管について

- ・ディスクは、ケースに入れて保管してください。
- ・自動車のダッシュボードやトレーは高温になることがありますので、ディスクを絶対に放置しないでください。
- ・次のような場所に保管しないでください。
 - ほこりやちりの多い場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 暖房器具に近い場所
 - 湿気の多い場所

4.2.2 ディスクのデータを守るために

ディスクには、ディスクのデータを誤って消したり、不要なデータを書き込んだりするのを防ぐための DATA PROTECT スイッチ（黒いつまみ）がついています。このスイッチを矢印の方向（下）にスライドさせておくとディスクのデータを読み出すことはできませんが、書き込むことができなくなります。スイッチを元に戻すと、再び書き込むことができますようになります。

書き込む必要のないディスクは、スイッチを矢印方向にスライドさせておいてください。



4.3 クリーニングについて

POINT

- ▶ レンズおよびディスクのクリーニングを定期的に行ってください。データを正常に読み書きできなくなることがあります。

4.3.1 レンズのクリーニング

このディスクユニットは、データの書き込みや読み取りをするために、光学レンズを使用しています。レンズがほこりやごみなどで汚れていると、正常なデータの書き込みや読み取りができない場合があります。このようなことを防ぐために、ヘッドクリーナで定期的に行う必要があります。ディスクユニットの性能を維持するために、1か月に1度はクリーニングを行ってください。

■ 使用できるヘッドクリーナ

光磁気ディスククリーニングカートリッジ（サブライ商品番号：0240470）（別売）をお使いください。クリーニングの仕方は、クリーニングカートリッジの使用説明をご覧ください。

4.3.2 ディスクのクリーニング

ディスクを長い間使用すると、ディスク上にほこりや汚れが付着し、データを正常に読み書きできなくなる場合があります。このようなことを防ぐために、ディスククリーニングキットでクリーニングを行う必要があります。

ディスクの性能を維持するために、3か月に1度はクリーニングを行ってください。

■ 使用できるクリーニングキット

光ディスククリーニングキット（サブライ商品番号：0632440）（別売）をお使いください。クリーニングの仕方は、クリーニングキットに付属の使用説明書をご覧ください。

付録 A 主な仕様

■ 性能

総記録容量（ユーザ領域） ^(*1)	128Mbytes (127Mbytes) 230Mbytes (228Mbytes) 538Mbytes (533Mbytes) 643Mbytes (635Mbytes) 1.28Gbytes (1.24Gbytes)
セクタ容量	512 bytes (R640、OW640、R13G 以外) 2048 bytes (R640、OW640、R13G)
回転数	5455rpm (R13G 以外) 3637rpm (R13G)
平均回転待ち時間	5.5msec (R13G 以外) 8.2msec (R13G)
平均シーク時間（回転待ち、SCSI オーバーヘッドを含みません）	23msec
データ転送速度 連続ライト（実効） 連続リード（実効）	6.70Mbytes/sec（最大、1.3GB ディスク時） 0.99 ~ 1.70Mbytes/sec（1.3GB ディスク時） 2.98 ~ 5.09Mbytes/sec（1.3GB ディスク時）
ロード時間	8sec（平均、R13G 以外） 12sec（平均、R13G）
アンロード時間	4sec（平均）
ホストインタフェース	SCSI（Small Computer System Interface）-2

*1) フォーマット時の容量を 1 Mbyte = 1000 × 1000 バイトで換算

■ 電源・その他

電源	DC + 5V
消費電力	6.1W
最大外形寸法（突起部を含まず） （幅×高さ×奥行き）	148 × 43 × 162 mm （5 インチベイ 1 段使用）
質量	約 1.0kg（媒体を含まず）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

あ行

イジェクト.....	9
オーバライト方式.....	8

か行

クリーニングカートリッジ.....	18
クリーニングキット.....	18

さ行

終端抵抗.....	11
手動イジェクト治具.....	9, 15
スーパーフロッピー形式.....	17
総記録容量.....	8, 19

た行

ダイレクトアクセス装置.....	12
デバイスタイプ.....	11, 12
ドライブ番号.....	11, 12

は行

パワーセーブ機能.....	14
光メモリ装置.....	12
ヘッドクリーナ.....	18

D

DATA PROTECT スイッチ.....	18
------------------------	----

E

EJECT.....	15
------------	----

Memo

Memo

PRIMERGY

内蔵光磁気ディスクユニット

(PG-PD240/PGBPD240)

取扱説明書

B7FY-1101-01-00

発行日 2003年6月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



このマニュアルは再生紙を使用しています。